

Mediasite の導入

1. 概要

(1). 導入背景

近年、メディアセンターが映像収録から配信のサポートをする講義や講演会、セミナー等は年々増加傾向にあったが、本センターのサポート人員は限られており、作業負担も同様に増加傾向にあった。

こうした状況を鑑み、本センターでは2014年度に映像収録配信システム Mediasite を導入した。Mediasite は講師動画とスライド資料の同時収録が可能であり、特に作業負担が大きかったコンテンツ化から配信までをシステム内で簡単に行うことができ、ユーザーインターフェースにも優れている。国内外の実績も十分であり、LMS (Learning Management System) 連携やスマートフォン等のモバイル端末からの視聴も可能であることが導入の決め手となった。

具体的には池袋キャンパスに据付型と持ち運び型の2種類の Mediasite レコーダを導入し、教室の常設カメラからの映像収録はもちろんのこと、カメラが常設されていない教室での収録にも対応できるようにした。

(2). システム運用

① 据付型

池袋キャンパス 8 号館の 5 つの大教室 (8101、8201、8202、8303、8304 教室) は、教室内常設カメラで撮影し、8 号館 4 階の本センター教材準備室で収録することができる。カメラコントロールも 4 階で行うことができ、準備時間が必要でないため、突然の収録も可能である。

② 持ち運び型

場所を選ばず、どこでも収録が可能である。ただし、撮影のためのカメラ、マイク設備のない場所でのポータブルマイクシステム、更に映像投影設備のない場所ではプロジェクターやスクリーン、またスライド資料投影用のノート PC が必要である。そのため、準備には移動も含め、少なくとも 30 分はかかる。

据付型は上記 5 教室のみであるため、ほとんどは持ち運び型での運用となる。移動、準備時間を考えると、連続して別の場所での収録は難しい。

2. 利用状況

(1). 配信形態別利用

① オンデマンド配信

収録のほとんどがこのオンデマンド配信の形であったが、講演者のスタイル

により、様々な活用の仕方が可能であることが分かった。

例えば、スライド資料は使用せず板書だけの場合は、講演者と板書を一画面に拡大して収録することで、板書が見やすく、視聴しやすくなることが分かった。

また、録音室でプロンプターを用いて収録すると、講演者の視線が視聴者に向くようになり、事前学習等に利用することができた。

② Live 配信

図書館の職員研修では、職員全員は事務室を空けられない、また池袋キャンパスだけでなく新座キャンパスの事務室職員も同時に視聴したいという要望に応え、インターネット Live 配信を行った。自席の PC で視聴することができるので、1回の研修で職員全員が参加することができた。

形態	件数
オンデマンド配信	77
Live 配信	5
合計	82

表 1 : Mediasite 利用形態別件数

(2). 利用内容

① 授業

講義収録で、通常は PowerPoint 等のスライド資料を使用する。Mediasite の最大のウィークポイントが動画のとりこみであるため、ワイヤレスマウスの使用が難であった。また、動画の再生には、途中で資料映像をカメラ映像に切り替えることで対応した。録画データをどのように活用していくか未定だが、まずは収録してみるという模索的な利用が多かった。

② 学校行事

オープンキャンパスで、各学部の体験授業を収録した。同日に複数の授業を収録する必要があったため、持ち運び型を一時的に 1 台レンタルし、既存と合わせて合計 3 台で運用した。

後に、このコンテンツは、本学ホームページにおいて入学センターの受験者用サイトに公開されている。①とは違い、インターネットで学外公開となるため、公開前に事前に内容をチェックし、公開できない部分についてはスライドの差し替えを行った。Mediasite では切り貼りのような編集は容易に可能である。

③ 授業外

セミナー等、欠席者に後で視聴させることができる、離れた場所にいるものが同時に視聴できる、一度講習を受けたものが復習に利用する等、様々な利用方法が展開された。

基本的には収録動画の URL を視聴希望者に知らせ、アクセスさせることで視聴できるが、中には収録動画の DVD を希望される場合もあり、その作成も可能である。

内容	件数
授業	33
学校行事	12
授業外	37
合計	82

表 2 : Mediasite 利用別件数



図 1 : 8 号館 4 階据付型
Mediasite



図 2 : 4402 教室 (操作卓)
Mediasite 設置



図 3 : 9B03 教室 (AV ラック)
Mediasite 設置



図 4 : 12 号館 2 階会議室
Mediasite Live 配信

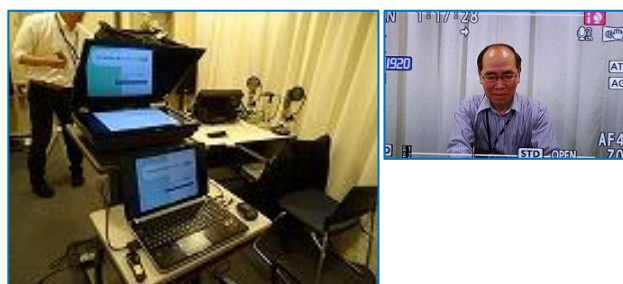


図 5 : 録音室 Mediasite 設置



図 6 : 視聴者画面(2 面)1-1



図 7 : 視聴者画面(2 面)1-2



図 8 : 視聴者画面(1 面)2-1



図 9 : 視聴者画面(1 面)2-2

3. 2014 年度のまとめ

導入直後からセンター長、副センター長をはじめ、メディアセンターに関わりのある教員に大いに利用していただき、どのような利用の仕方ができるのか、設置はどのようにすると効率的なのか等の経験を積むことができた。

収録するだけで、すぐに PC で再生できるのは非常に便利である。これまで、既存の機材で収録したものを再生するとスライド資料が見にくい、または資料を優先すると講師が豆粒のように小さいといった難点があったが、Mediasite ではスライドも講師のカメラ映像もクリアに見えるので画期的である。また、V-Campus ID (学内者に付与される固有 ID) を利用して視聴者の制限をかけることもできる。

一方で、持ち運び型ではたまに映像がぼやける、据付型では教室の教卓システムで最初に決めたスライド資料投影用のスクリーン選択を、途中でメインからサブに切替えると、資料映像が収録されなくなるといった問題が生じた。また、動画やワイヤレスマウスなど、動きのある資料の収録には問題がある。更に本学の LMS である Blackboard との連携において、視聴者の権限を設ける方法など、カスタマイズが必要な問題も残している。

今後、メーカー側のシステム向上を期待しつつ、現在使用している 2 台のレコーダをさらに効率的に運用するにはどうすればよいか、考えていきたい。